



大雨被害と災害対策協議会

8月10日深夜から11日朝にかけて、熊本県内では記録的な大雨により各地で甚大な被害が発生しました。被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

この事態を受け、熊本県議会では8月20日、知事出席のもと災害対策協議会が開催され、私もメンバーとして出席しました。先ず、被害状況についての報告があり、その後、当面の基本方針や現地調査の日程及び調査箇所の選定について協議をしました。

今後の調査を通して現場の実情や被災者の声を踏まえ、迅速かつ実効性のある支援策が講じられるよう、しっかり対応してまいります。

尚、詳細な内容や今後の取り組みについては、改めてご報告いたします。引き続き県民の皆様との安全と生活再建に全力で取り組んでまいります。



これからの熊本城について

7月30日、熊本市は熊本城において、民間事業者が主催する能楽公演や大天守での飲食を認める方針を明らかにしました。熊本城を舞台とした新たな試みが幕を開けます。

思えば今から20年ほど前、市議を務めていた頃、「熊本城マラソンの開催」や「豪華宿泊ツアー」、「朝夕の開園時間延長」、「城内での飲食イベント」などを一般質問で提案したことを思い出します。実現したマラソン以外、当時は「前例がない」「大胆すぎる」との声もありましたが、その後、全国では夜間開園や宿泊体験を導入するお城が次々に登場し、話題と観光効果と呼んでいます。

そもそも私がこれらを提案した背景には、灯台下暗しの私たち市民を含めて「名城は一度行けば十分」という風潮を変えたかった思いがあります。熊本城の魅力を内外に発信し、定期的に訪れる場にする事で、宿泊による経済波及や市民の健康づくりにもつなげたいと考えていました。

今回の熊本市の判断は、観光振興やお城の維持管理費用の確保にもつながる重要な一歩だと思っています。現に熊本城は地震からの復旧工事が続く中でも、国内外から多くの観光客が訪れる本県の誇るシンボルです。能楽の上演や大天守での特別な体験は、熊本県の歴史文化を発信する絶好の機会になるでしょう。

記事を読みながら「当時の提案がまた1つ形に」と感慨深く思いました。熊本の誇る歴史文化をさらに発信できるよう、私も引き続き新たな提案を続けてまいります。



健軍駐屯地への ミサイル配備報道について

7月末、反撃能力を持つ国産の長射程ミサイルの最初の配備先として、陸上自衛隊健軍駐屯地が最終調整されているとの内容が突如地元紙で報道されました。現時点で防衛省は「検討中」としていますが、地域にとって大きな関心事であることは間違いありません。

申し上げるまでもなく、国の安全保障は国の専権事項であり、厳しさを増す国際情勢の中で、抑止力の強化が求められることも理解できます。しかし、地域の皆さんが突然の報道によって知ること、不安や疑問を抱かれていることも極めて当然のことです。

特に、生活圏に関わる事柄である以上、住民の声に耳を傾け、誠意を持って説明することが不可欠です。防衛省・自衛隊には、配備の背景や影響、安全面について、丁寧な説明と地域住民との対話の場を設けることが求められます。

恐らく、今月開会される県議会定例会でもこの件が俎上に上り、議論が交わされるのは必至です。私自身も熊本市選出の県議会議員として、皆さまの声をしっかり受け止め、必要に応じて市民の懸念を国や関係機関にお伝えできるよう努めてまいります。今後も、地域の安心と安全が確保されるよう、全力で取り組んでまいります。

夏祭り

7月26日、ご案内いただいた地元をはじめ各地域で開催される夏祭りに参加し、計8カ所を駆け足で回らせていただきました。

毎年のことですが、どうしても開会時刻が同じような時間帯になるので、来場の皆さんとゆっくり話しができないのが残念です。

有り難いことにいずれの会場でも、挨拶の機会をいただきました。お祭りという楽しい場面だけに、挨拶はできるだけ簡潔にすることを心掛け、早朝からの準備や運営全般に尽力された自治会や各種団体の役員の皆さまに心から感謝の気持ちをお伝えしました。



また連日の厳しい暑さの中、参加者の皆さんには体調を崩されないようご自愛いただきたいこと、そして夏のひとときが思い出深く楽しい時間となるようお願いを込めて話したのです。

幸い当日は日差しがやや柔らかく、台風之余波で風もあり、例年に比べると過ごしやすく感じました。

各会場では子どもから高齢者まで幅広い世代が集い、笑顔があふれ、地域の絆と活気を強く感じる一日となりました。これからも、こうした地域の交流と連帯がより一層深まるよう、私も力を尽くしてまいります。

